

殿

骨材試験報告書

平成 年 月 日

工事名 _____

工事場所 _____

製品名 _____

福井市志比口3丁目2番14号 はさきビル2階

久米田砕石株式会社





070239JP

1/8

試験番号： A-18-5-0100-4

受付日：平成 31 年 2 月 20 日

試験結果報告書

(骨材試験)

[スクリーニングス (F-2.5)]

久米田碎石株式会社 殿

試験結果は、本報告書のとおりであることを証明します。

平成 31 年 4 月 1 日

JNLA 認定登録試験事業者

株式会社 M・T 技研 中央材料研究所

福井県鯖江市二丁掛町第7号6番地

TEL : 0778-62-1000 FAX : 0778-62-7723

発行責任者 所長 小林 宏成



骨材試験結果一覧表

依頼者	会社名	久米田碎石株式会社
	所在地	福井県福井市志比口3丁目2番14号
申請事項	試験採取日	平成31年2月20日
	試験採取場所	骨材堆積場
	試験採取者	今村 嘉孝
試験搬入日		平成31年2月20日
試験日		平成31年2月21日 ~ 平成31年3月27日

試験体種類		産地
細骨材	スクリーニングス(F-2.5)	福井県坂井市丸岡町上久米田37字

試験項目			試験結果
ふるい分け試験	JIS A 1102	粗粒率	2.67
微粒分量試験	JIS A 1103	微粒分損失質量 %	—
単位容積質量試験	JIS A 1104	単位容積質量 kg/l	1.60
		実積率 %	61.1
有機不純物試験	JIS A 1105	標準色に比較して	—
密度及び吸水率試験	JIS A 1109 JIS A 1110	表乾密度 g/cm ³	2.66
		絶乾密度 g/cm ³	2.62
		吸水率 %	1.65
すりへり試験	JIS A 1121	すりへり減量 %	—
安定性試験	JIS A 1122	安定性損失質量 %	2.0
粘土塊量試験	JIS A 1137	粘土塊量 %	0.05
骨材中の塩化物量試験	JIS A 5002	塩化物含有率 %	—
粒形判定実積率試験	JIS A 5005	粒形判定実積率 %	—
技術管理者		榎田 直也	
試験担当者		榎田 直也	

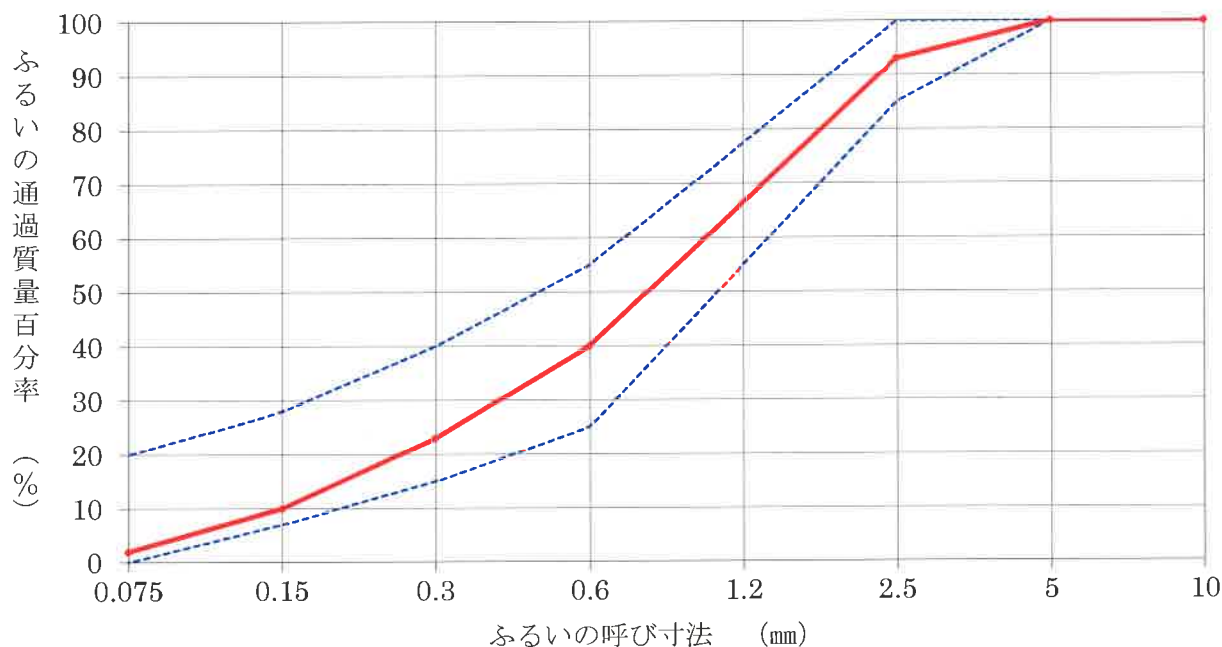
試験規格 JIS A 1102

骨材のふるい分け試験（細骨材）

試験担当者： 榎田 直也

試験日	平成 31 年 3 月 1 日			
試料	種類	スクリーニングス (F-2.5)	最大寸法	2.5 mm
	産地	福井県坂井市丸岡町上久米田37字		
	採取日	平成 31 年 2 月 20 日		
	採取場所	骨材堆積場		
ふるい分け方法	手動	ふるい分け前の質量	560.8	
ふるいの呼び寸法 (mm)	連続する各ふるいの間にとどまる試料の質量 (g)	連続する各ふるいの間にとどまる試料の質量分率 (%)	各ふるいにとどまる質量分率 (%)	各ふるいを通過する質量分率 (%)
10	0.0	0	0	100
5	0.0	0	0	100
2.5	40.8	7	7	93
1.2	144.4	26	33	67
0.6	150.2	27	60	40
0.3	94.0	17	77	23
0.15	73.3	13	90	10
0.075	45.3	8	98	2
受け皿	12.5	2	100	0
合計	560.5	100	—	—
試験前後の質量差 (%)	0.05	粗粒率	2.67	
隣接するふるいにとどまる量の質量分率の差の最大値 (%)			27	

粒度曲線図



試験規格 JIS A 1104

骨材の単位容積質量及び実積率試験

試験担当者： 榎田 直也

試験日			平成 31 年 3 月 14 日	
試料	種類		スクリーニングス (F-2.5)	
	産地		福井県坂井市丸岡町上久米田37字	
	採取日		平成 31 年 2 月 20 日	
	採取場所		骨材堆積場	
試験回数			1	2
単位容積質量	容器の質量 (kg)	(1)	0.908	0.908
	容器の容積 (l)	V	2.001	2.001
	(容器+試料)の質量 (kg)	(2)	4.109	4.101
	試料の質量 = (2)-(1) (kg)	m_1	3.201	3.193
	単位容積質量 = $\frac{m_1}{V}$ (kg/l)	T	1.60	1.60
	2回の試験の平均値 (kg/l)	\bar{T}	1.60	
	平均値からの差 (規格値:0.01kg/l以下)		0.00	
実積率	試料の絶乾密度 (g/cm ³)	d_D	2.62	
	実積率 = $\frac{\bar{T}}{d_D} \times 100$ (%)	G	61.1	

試験規格 JIS A 1109

細骨材の密度及び吸水率試験

試験担当者： 榎田 直也

試験日			平成 31 年 3 月 7 日	
試料	種類	スクリーニングス (F-2.5)		
	産地	福井県坂井市丸岡町上久米田37字		
	採取日	平成 31 年 2 月 20 日		
	採取場所	骨材堆積場		
試験回数			1	2
表乾密度	水を満たした ピクノメータの全質量 (g)	m_1	1153.2	1165.8
	表乾密度試験用試料の質量 (g)	m_2	574.6	563.5
	試料と水を満たした ピクノメータの質量 (g)	m_3	1512.1	1517.6
	試験温度における水の密度 (g/cm ³)	ρ_w	試験水の温度 20 °C 0.9982	
	表乾密度 = $\frac{m_2 \times \rho_w}{m_1 + m_2 - m_3}$ (g/cm ³)	d_s	2.66	2.66
	2回の試験の平均値 (g/cm ³)	\bar{d}_s	2.66	
	平均値からの差 (規格値:0.01g/cm ³ 以下)		0.00	
絶乾密度	表乾状態の 吸水率試験用試料の質量 (g)	m_4	537.4	528.2
	乾燥後の 吸水率試験用試料の質量 (g)	m_5	528.8	519.5
	絶乾密度 = $d_s \times \frac{m_5}{m_4}$ (g/cm ³)	d_d	2.62	2.62
	2回の試験の平均値 (g/cm ³)	\bar{d}_d	2.62	
	平均値からの差 (規格値:0.01g/cm ³ 以下)		0.00	
吸水率	吸水率 = $\frac{m_4 - m_5}{m_5} \times 100$ (%)	Q	1.63	1.67
	2回の試験の平均値 (%)	\bar{Q}	1.65	
	平均値からの差 (規格値:0.05%以下)		0.02	

水の温度と密度					
温度 (°C)	密度 (g/cm ³)	温度 (°C)	密度 (g/cm ³)	温度 (°C)	密度 (g/cm ³)
15	0.9991	19	0.9984	23	0.9975
16	0.9989	20	0.9982	24	0.9973
17	0.9988	21	0.9980	25	0.9970
18	0.9986	22	0.9978	—	—

試験規格 JIS A 1122

硫酸ナトリウムによる骨材の安定性試験（細骨材）

試験担当者： 榎田 直也

細 骨 材							
試 験 日		平成 31 年 3 月 27 日					
試 料	種 類		スクリーニングス (F-2.5)				
	産 地		福井県坂井市丸岡町上久米田37字				
	採 取 日		平成 31 年 2 月 20 日				
	採 取 場 所		骨材堆積場				
ふるいの呼び寸法		ふるい分け試験		試験前の 各群の質量	試験後の 各群の質量	各群の損失 質量分率 $(1 - \frac{m_2}{m_1}) \times 100$	骨材の損失 質量分率 $\frac{\text{①} \times P_1}{100}$
通る ふるい	とどまる ふるい	各群にとどまるもの					
		質量	①質量分率	(g)	(g)	(%)	
(mm)	(mm)	(g)	(%)	m_1	m_2	P_1	(%)
0.15	—	57.8	10	—	—	—	—
0.3	0.15	73.3	13	—	—	—	—
0.6	0.3	94.0	17	100.0	96.8	3.2	0.5
1.2	0.6	150.2	27	100.0	97.6	2.4	0.6
2.5	1.2	144.4	26	100.0	97.3	2.7	0.7
5	2.5	40.8	7	100.0	97.8	2.2	0.2
10	5	0.0	0	—	—	—	—
合 計		560.5	100	—	—	—	2.0

注) ①の質量分率が全質量の5%に満たない群のものについては試験をしないが、その群の前後における損失質量分率の平均値をもって その群の値とする。前後の群における試験値のいずれかが欠けているときは、欠けていないほうの群の損失質量百分率をとる。

試験規格 JIS A 1137

骨材中に含まれる粘土塊量の試験

試験担当者： 榎田 直也

細骨材		
試験日	平成 31 年 3 月 26 日	
試料	種類	スクリーニングス (F-2.5)
	産地	福井県坂井市丸岡町上久米田37字
	採取日	平成 31 年 2 月 20 日
	採取場所	骨材堆積場
試験前の試料の乾燥質量 (g)	m_{D1}	663.7
試験後の試料の乾燥質量 (g)	m_{D2}	663.4
粘土塊量 = $\frac{m_{D1} - m_{D2}}{m_{D1}} \times 100$ (%)	C	0.05

注) 試験の回数は1試料につき1回とする。ただし、最初の試験で粘土塊量が1.0%を超える場合は再度試験を行う。

